

キャストはりま塾

キャストはりま塾

住民参画のまちづくり

塾長 福原隆泰



1. 平成16年度の活動を振り返って

キャストはりま塾も3年目を迎え、『参画と協働』のまちづくりを旗頭に、さらに具体的な活動

・研究の一步・二歩が踏み出せた実感を持っています。

2年間の活動を通して得られたことをステップにして、より具体的に、まちづくりは人づくりから、そして地域活動に参加するきっかけづくりを企画・実践しました。

石の上にも3年、今年是对外的なネットワークづくりと広報活動にも取り組みました。活動の輪を広げるために、緑化フェアでパネル展示を行い、積極的に他の「セミナー」にも参画して情報の収集も図りました。特に、地域資源のため池や川を「如何に魅力的なもの」にしていくかをテーマに、町域を超えた枠組みづくりに参画しました。

こうした活動を通じて、ケーブルテレビ(BAN-BAN TV)やミニコミ誌で取り上げられることも増え、秋には、活動の事例発表の機会を東播磨地域ビジョン委員会主催の「まち景観フォーラム」で報告することもできました。

この1年間の活動は後述しますが、播磨ゆめづくり塾の共同企画をはじめもてたことも、この制度の成熟を実感することになりました。



2. どんな活動をしたの？

これまでの活動を土台に、「地域資源の豊かな水辺を生かしたまちづくり」、「花で彩るまちづくり」を活動の柱に、誰もが誇れる・好きになれる「わがまち播磨町」を目指して

取り組みました。

具体的にはこんなことをしました…

- わが町の先覚者である今里伝兵衛さんが拓いた「新井水路」をたどる第2回エコ・ツーリズムを企画・実施しました。
- 第2回ガーデニングフォトコンテストを開催しました。
- 「かがやきの北池コミュニティ」の運営をサポートしました。
- 子ども会連絡協議会主催の「ため池ウォーク」の喜瀬川遊ingを企画・実施しました。
- 産業生活課主催の「ため池コミュニティ会議4」をサポートしました。
- 先進事例の地域通貨「未杜」と「ゆーら」を視察研修しました。
- 先進事例の里林「河辺いきもの森」の保全活動を視察研修しました。
- 「親学習セミナー」として、家族・地域の中でのコミュニケーションスキルアップを図るオープンセミナーを開催しました。



3. どんな成果があったの？

新井水路のエコ・ツーリズムを通して、参加いただいた皆さんに、わがまち播磨町の貴重な地域資源を再発見していただきました。

ガーデニングフォトコンテストでは、「花で彩るまちづくり」というテーマで、播磨町らしいコンテナガーデンの啓蒙活



動を実践しました。また、役場駐車場及び北西側の花壇等の緑化活動も行いました。

「かがやきの北池コミュニティ」の運営に関しては、魚のつかみ取り大会のお手伝いができ、参加した地域の皆さんと楽しいひと時を過ごすことができました。



「ため池ウォーク“喜瀬川遊ing”」では、子どもたちやご家族の皆さんと、貴重なふれあいの機会を共有することができました。

「ため池コミュニティ会議4」ではテーブル会議のコーディネーターを担い、参加者の皆さんから利活用に関する活発なご意見を伺うことができました。

地域通貨に関しては、地域と等身大で楽しく運営されている2例を視察して、苦労話や貴重なアドバイスと我々にも「やれるかな」という、自信とエールを頂きました。



里林の保全に取り組む市民団体「遊林会」の皆さんからは、住民主体の環境保全の取り組みが、「楽しむ」というキーワードを如何にデザインするかについて、ため池を「里池」に読み替えて応用できる具体的なアドバイスを頂きました。

最後に、「親学習セミナー」にお招きした栗木先生からは、地元ネタの掘り起こしは、ある意味「虫の眼」で意識して地域を観察することが大切で、家庭で、地域で話題を共有する仕方、その気にさせるテクニックをうかがうことができました。参加者の皆さんにもセミナーの運営にあたっての貴重なアドバイスも伺いました。

4. これからどうするの？

3年間の活動を通して、随分テーマが絞られてきたように感じます。

播磨町の貴重な地域資源を生かして、たくさんの方々とまちづくりの現場で共に時間を共有し分かち合える「きっかけ」づくり。

より多くの方に関心を持っていただくための「環境」づくり。

この2点を柱に、工夫を加えて魅力ある企画づくりに取り組んでいこうと考えています。

反省すべき点は、「今年も新メンバーの参加が得られなかったこと」です。「どうして活動の輪を広げるか」が今後の課題と言えます。

これからも、地域の資源を財産として誰もが大切に、新たな文化を育みながら、誰もが気持ちよく住まえる播磨町を目指して活動の質を高めていきたいと考えています。



5. まとめ

我々の塾では、「参画」と「協働」の理念に基づく具体的な実践活動を目的としています。まちづくりの中で我々にできることを見つけ出し、行政とのパートナーシップをもって、住みよいまちにしていくことができればと考えています。

塾のモットーは「できるときに、できる人が、できることをやっけて行こう！」ということです。

これからはますます、私たちの塾の活動に興味を持って、面白そうだな…と関心を持っていただき、参加していただける方の輪が大きくなることを願います。

事業実績報告書

平成16年度 塾名 キャストはりま塾〈3年目〉

日 程	事業内容	実施場所	対 象	備 考
4月10日〔土〕 19:00～21:00	平成15年度の決算報告および、平成16年度 塾長応募の件	中央公民館 3研	塾生	緑化フェアへの出展について
4月14日〔水〕 19:00～21:00	事業計画づくり ★年間スケジュール<案>	中央公民館 3研	塾生	エコ・ツーリズム、ガーデニングフォトコンテストなど
4月24日〔土〕 19:00～21:00	事業計画の決定 ★エコ・ツーリズム、フォトコン	中央公民館 3研	塾生	フォトコンテスト応募要綱⇒6月号広報へ掲載
4月29日〔木〕 9:00～15:00	広報活動 ★緑化フェア出展	野 添 北 公 園	塾生	フォトコンテストのパネル・塾の活動紹介パネル
5月22日〔土〕 19:00～21:00	緑化フェア出展・塾長審査会の報告、エコ・ツーリズムの企画	中央公民館 3研	塾生	エコツーリズム参加者募集⇒7月号広報へ掲載
6月26日〔土〕 19:00～21:00	新井水路ツーリズム資料作成、ため池コミュニティのサポート	中央公民館 3研	塾生	塾への新規参加者ゼロ
7月10日〔土〕 8:30～12:30	新井水路エコ・ツーリズム開催	新 井 を 辿 る	住民一般を合わせて、参加者29名	約14キロ完歩
7月24日〔土〕 19:00～21:00	ツーリズムの振り返りと地域通貨の先進事例の視察	中央公民館 3研	塾生	ゆめ塾共同事業の企画づくり
8月28日〔土〕 10:00～12:00	キャストはりま塾の運営 地域通貨視察に関して	中央公民館 3研	塾生	参加率の低下が課題
9月1日〔水〕 14:00～16:30	播磨わくわく講座 ★「ため池の今後について」等	2 0 1 会 議 室	塾生	佐伯町長との懇談
9月14日〔水〕 12:00～14:00	先進事例調査の準備 水管理セミナー参加の報告	中央公民館 ロビー	塾生	議会傍聴
9月29日〔水〕 8:00～18:00	先進事例調査 ★柏原町と綾部市を訪問	丹波の森公苑 綾 部 市	一般参加を合わせて10名	地域通貨>「未杜」「ゆーら」
10月8日〔金〕 19:00～21:00	先進事例調査の振り返り	中央公民館 特研	塾生	サポート事業の企画⇒「魚のつかみ取り」、「喜瀬川遊ing」
10月24日〔日〕 10:00～12:00	第3回「魚のつかみ取り大会」 ★プログラムの作成と運営支援	北 池	北池コミュニティ	天候に恵まれ参加者は約70名。
10月27日〔水〕 9:30～11:30	第3回「ふれあいウォーク」 ★プログラムの作成と運営支援	教 育 委 員 会	塾生	「喜瀬川遊ing」を担当する。
10月30日〔土〕 8:30～12:00	子連協第3回「ふれあいウォーク」 ★プログラムの作成と運営支援	で あ い 公 園 と 喜 瀬 川	オープン	稲美町喜瀬川プロジェクトとハレットクラブのご協力を頂く。
11月13日〔土〕 14:00～15:30	塾活動 上期決算と下期スケジュール作成	中央公民館 1研	塾生	上期の総括
11月22日〔月〕 13:30～15:30	第2回 ガーデニング・フォト コンテスト 審査会	花と緑のまちづくり 研 究 所	塾生	藤岡先生に審査頂く。
11月29日〔月〕 14:00～16:00	第2回 ガーデニング・フォト コンテスト 表彰式について	中央公民館 1研	塾生	「らしさ」を啓蒙・啓発
12月13日〔月〕 13:00～13:30	第2回 ガーデニング・フォト コンテスト 表彰式開催	中 央 公 民 館 視 聴 覚 室	応募者	審査委員から講評を頂く。
12月26日〔日〕 12:00～17:00	「ため池コミュニティ会議4」 産業生活課主催	中 央 公 民 館 大 ホ ー ル	水利関係者他	8分科会のワークショップのコーディネートを担当する。
1月13日〔水〕 11:30～13:00	下期事業の検討	民 生	塾生	里山管理の事例調査と一般向けセミナーを開催する。
2月25日〔金〕 13:30～15:00	視察研修の企画調整	中央公民館 1研	塾生	セミナーは、青少年本部の「親学習セミナー」を利用する。
3月2日〔水〕 8:30～18:30	「河辺いきものの森」を視察	滋賀県東おうみ市	一般参加者を合わせて15名	住民主体の里山管理
3月10日〔水〕 13:30～15:30	視察研修の反省会	中央公民館 1研	塾生	ため池を「里池」として展開
3月14日〔月〕 13:00～14:30	「親学習セミナー」の準備 LETS阿閑の試験運用について	中央公民館 3研	塾生	緑化フェアとのジョイントを調整 ⇒都市計画課
3月19日〔土〕 9:30～11:30	「親学習セミナー」の開催 コミュニケーションスキルアップセミナー	南 部 コ ミ ュ ニ テ ィ セ ン タ ー 大 ホ ー ル	一般参加者を合わせて20名	BANBAN-TVの取材を受ける。
3月30日〔水〕 13:30～16:00	1年の総括・会計決算	中央公民館 3研	塾生	4年目への展開を協議する。

追記：平成16年11月20日 明石生涯学習センターで開催された「まち景観フォーラム」(東播磨地域ビジョン委員会主催) 活動事例の発表を行う。

事業実施報告

平成16年度 塾名 キャストはりま塾〈3年目〉

～花で彩るまちづくり活動～

日 程	事業内容
7月18日〔日〕	浜幹線 南側36ヶ所の植木の下へ花苗を植えた。
	花苗 アリッサム50本 ヘデラ30本 ナデシコ120本 宿根草サルビア60本 他 計280株
	土の改良剤「カコちゃん」40kgを地域の山下さんとリサイクルプラザへ頂きに行った。 [松本]
	キャストはりまの活動として、苗の提供と地域の人々と共に活動をした。 [本谷・福原・松本・井元]
8月4日〔水〕	同上の植木の下へ多木肥料を3袋、施肥を行った。 [井元・松本]
9月6日〔月〕	第1月曜日 役場(西側)の花壇の草引き及び施肥。
9月26日〔日〕	JR土山駅前 北側花壇が新設される。土山駅前老人クラブへ苗を提供。 花苗 ローズマリー(大) 20本 コバノランタナ30本 アリッサム48本 ハツユキカズラ(大) 1本・(小) 10本 レオノチス(3m×10m=30㎡の場所)
10月4日〔月〕	第1月曜日 役場(西側)の花壇の草引き。
10月20日〔水〕	役場 東側花壇2ヶ所 照明灯取替え工事のため、花の一部を移植。 ※消費者協会会員と共に作業する。
11月1日〔月〕	役場 東側花壇 工事のため、前面植え替えを実施。 苗の提供 ローズマリー、アブチロン、コバノランタナ、サクラソウ 他 (他の苗代は役場より3万円提供。)
	JR土山駅前 花壇にもサクラソウの苗24株を提供。
12月6日〔月〕	第1月曜日 役場(西側1箇所・東側2ヶ所)の花壇の草引き及び施肥。 チップを3箇所に撒き、マルチをした。 ※マルチ：株の根元の土を覆い、夏には土の温度の上がりすぎ、冬に土が凍ったりするのを防ぎ、地面の乾燥や多湿、更には雑草も防止し、葉への土跳ねを防いで病害防除などにも役立ちます。
2月7日〔月〕	役場(西側)花壇の草引き及び施肥。
2月14日〔月〕	堆肥箱を設置。 ※教育委員会の三宅さんの提供で出来あがった。
3月7日〔月〕	第1月曜日 役場(西側)の花壇の草引き。

【先進事例視察調査 地域通貨レポート】

1. 新しいコミュニティを創造する会 ～地域通貨「未杜」～

場所：丹波の森公苑内 本館2階会議室

新しいコミュニティを創造する会：赤井俊子さん、由良ゆかりさん、足立まなさん、松下和男さん、青木義雄さん



兵庫県下にある地域通貨の34事例の中でも、トップクラスの実績を持つ「未杜」に、直接触れて、播磨町での実践につながる「気付き」を得るため、視察を実施した。

地域通貨の可能性

- 政策の転換：成長一点張りの高度経済成長期の次に訪れた「低成長時代」に、「あたたかい経済」が注目を集める。
- コミュニティが崩壊し、農村部の過疎化が進行する中、都市部と農村部との交流等、地域通貨によるコミュニティの再構築が期待されている。
- 昔、地域をつないだ「ゆい」や「講」のような機能が期待されている。
- 円を王様にしない。円で価値を比較しない。
- みんな価値が違うもの。未杜は、お互いが「価値」を決める面白さをもつ。
- 近代市民社会は、コミュニティ自立が問われる。
- 地域通貨のメリットは、ネットワークが広がること。(今日の出会いもそう) また、スタッフ間の信頼感が生まれる。手をつな

げる。

- LETSは個人間のサービスの取引を「社会性」のあるものへと持ち上げる。

「未杜」について

- 会員制を取っている。現在会員は130人。事務局が紹介者としてコーディネートしている。サービスリストは作成している。
- プライバシーのバリアは、おしゃべりして「信頼感」を築く。
- 現状では、グローバルな“円”が強い。未杜の使い方も実費+未杜程度。お礼の気持ちを地域通貨に置換している。コメを未杜だけで買うことはできない。美容院でも未杜は使えるが、実費+未杜。商売は生きるための手段であり、まだまだ取って代わることはできない。
- 定期的に毎月30(みと)日の井戸端会議(一般公開)を開催している。様々なアイデアが湧いてくる。会費は500円若しくは300未杜。未杜の価値を重く設定している。
- 事務作業は、一般事務・新聞作り・取引の入力・メーリングリスト運営、助成金申請など。
- 新聞により“話題性”は仕掛けられる。存在を分かってもらえる。→広がる→循環につながる。
- 入会条件は特にない。強いて言えば“動かす”こと。井戸端会議で刺激する。
- 未杜に参加して得られる付加価値は、ネットワークが築けること、知り合いになれること、未杜新聞に掲載されること。
- 未杜新聞で“会員紹介”をするのは、地域に出てもらうため、地域の中の存在感を感じてもらうため、みんながまちづくりの主役であることを感じてもらうため。

質疑応答より

- コーディネーターの役割は？
⇒知っている人同士は直接に取引している。

- 未杜のやり取り(需給)のバランスは？
⇒偏ってしまう。4月から翌3月までを一区切りに、年に1回精算してゼロにしてしまう。
- 会員の構成は？
⇒子供からお年寄りまで幅は広い。子供たちは人生ゲームの感覚で遊び感覚で結構上手に使っている。お年寄りにとっては、交流の場所づくり。事務局が仲介して受付となるが、マイナスの多いひとには「稼ぐ方法」を指南する。フリマで出品してもらう等…。ゼロに近づけること。動かすことが大切で、利用の回数・頻度を高めたい。

まとめ

- 地域通貨は、あくまでもコミュニティづくりのツールでしかない。信頼を築くあたたかいお金。
- ネットワークづくりとしてメリットがある。見知らぬ「お互い」が知り合える。
- 日常生活とリンクさせること。日々の中へ持ち込むことがポイント。
- 事務局の“仕掛け”も大切。
- 自分自身が楽しむためにやる。
- 円に頼らない生活様式。円がすべてじゃない。

2. ゆーら企画

～地域通貨「ゆーら」～

場所：ボランティアセンター 2階会議室

ゆーら企画：四方源三郎さん、高瀬さん



綾部という個性

- 人口は39,000人。ゲンゼによって栄えたまち。昭和40年代から繊維産業の衰退が始まり、製糸業から靴下・シャツの製造へ転換してきた。
- ピーク時の人口は、53,000人を数えた。ゲンゼの女工さん、関連会社や子会社の従業員。綾部は紡績の町としてかなり栄えた。
- 高速道が、北東の舞鶴市から南西の丹波地方を結ぶ軸(舞鶴自動車道)と、南東の亀山市から北西の宮津を結ぶ軸(近畿自動車道)が交差する交通の要衝である。
- 物を作る技術力には長けている。15年前に京都府営の工業団地が開発され、市営のものも開発が続いたが、トステムやカルビーといった堅調な企業誘致も順調で、この度、京セラが進出することになった。(京セラが京都市外に出るのは初めて)
- 綾部市は、農業と工業が中心の町で、お金を払わないときのサービスは豊かで、奉仕の精神が残っている。コツコツと、ものづくりに打ち込む職人の町といえる。
- 気質的にも地域通貨に合っている。

綾部の若者ネットワークNEXTを組織化したきっかけ

- 悩みを話す場が無い。摩擦熱を起こしたかった。
- 年会費をなくし、出席率に縛られない、どんどん手助けし合える、そして本当にやりたいことができる「互助」の団体をつくることにした。
- 月刊誌『NEXT』は、Vol.68を数える。

地域通貨立ち上げのきっかけ

- お金に対する価値観・理解の違いが世代間であった。父親(64歳)の世代は、若い時代、給料が毎年倍々で増えていった。自分たちの世代は現状維持が良いところ。お金に幻想を抱いていないのが若い世代。

- 蓄えて安心しようと思わない。
- 地域振興券が評判悪く、不評だった1998年頃にNHKで放映された「エンデの遺言」で地域通貨の第1次ブームの時代であった。
- 京都府でも村上さんを中心に研究グループが立ち上がり、実験場を求めていた。ちょうどその頃、綾部のNEXTが立ち上がり、2001.5.から実験が始まった。
- 経済のつながりを由良川が作っていたので、地域通貨の名称も川に因んで「ゆーら」とした。

ゆーらのすがた

- 政府の円とゆーら企画のゆーらでは、残念ながら信用の度合いが違う。
- “円”は、人を殺してでも奪うもの、落ちて拾うのは“ゆーら”ではなく“円”をとる。蓄えて安心だから。
- しかし、先進国になって、経済が停滞してきた今、物を減らす時代になったと考える。
- 地域通貨の目的は、究極的には“宣伝”と考える。それは、人間関係の大切さを伝えるためであり、「考える人」を育てる手段であると考えます。
- すぐには地域の活性化にはつながらないが、副産物として活性化があるかもしれない。
- また、地域通貨自体では、経済やボランティアが盛んになることはない。

課題

- 2002.1.1に発行した際、8,000枚「ゆーら」を印刷した。
- 平成16年6月25日現在の総発行数は、6,330枚。ぐるぐる廻っていないのが現状。
- 1ゆーらを100円の寄付で交換しているので、ゆーら企画には現在633,000円あることになる。この使い方・生かし方も検討中。

以上

【先進事例視察調査 環境保全活動レポート】

『河辺いきものの森』を訪問して

ご案内 遊林会 代表 武藤精蔵氏
森の案内 丸橋氏



活動の経緯

環境保全の活動は20年前に始まった。市民の盛り上がりにつけずぐに廃れた。10年経って、八日市市で「緑を残す」施策がシフトした。

どうして理解を得るのか＜自然の保全＞

「貴重な自然の生態系を大切に残しましょう！」では、中々理解は得られない。

河辺林の変貌

人と洪水がかたちづくってきた。人は木を切り出さなくなった。ダムが洪水をなくし、氾濫原が不要になった。実際に、伊勢湾台風以来、愛知川の堤防は切れていない。遊水地として不要になった。

保全の方向性は…

人が切り出して関わる。子どもたちの自然体験のフィールドとして活かす。豊かな生態系を再生する。

行政のやり方

規約の制定や代表者の選任（偉い人に頼み、祭り上げる。ご機嫌取り）を求めるが、遊林会にはない。

先立つものがない！

心配事はあったが、「関心のある人が集まればできるやろう！」と見切りスタートした。

やるときは、必ずしもみんなで相談し、合意（総意）形成する必要はない。

最初は独断専行型で始めよう。趣旨を理解した人が進める（リードする）。

「舞台装置がないと活動できない」というのは間違い！

必要なのは「やる気」。遊林会で一番大切な施設は作業小屋。雨が降っても活動できるし、集まってわいわい食事もできる。

地域の理解が得られた

経済情勢も変わり、保全は「ほんまはわしらがやらなアカン」と協力を動き出した。

遊林会は…

会員制を取っていない。自分の意志で、自己責任で保全活動に参加する。気持ちのある人が、活動に理解を示して参加する。「この指とまれ」型。

NPOの認証はあえて、意識して受けない

財産もなく、今のところ信用上の不都合はない。

活動が、市や県、国に聞こえ出した

管理セクションとして「花と緑の推進課」が丸ごと引っ越してきた。（職員は現役の4名）

利用者本位の施設づくり

今でこそ、整ってきた組織。活動あつての施設整備。施設整備は二の次。

子どもたちの環境学習施設として

学校・幼稚園・保育園からの利用者は、年間6,000～8,000人にも上る。

自立した活動のために…

市の助成金では、道具等は購入できるが、飲

食（飯代は出ない）には使えない。だから稼ぐ努力はしている。ソフト事業として、実際の保全活動に加えて、保全啓発の講座を7つ『里山七彩』企画している。

効率は重視している

間伐材のコナラやクスギは、シイタケのホダ木に利用。シイタケは、産直販売所へ出して販売している。竹炭・まき・木酢液・焼き芋の販売…



会員の年齢層は…

60歳以上のシニアパワーが支えている。会は出入りが自由。新陳代謝が必要。中心になるコアスタッフは固定。

遊林会の保全活動は

環境を理解して、作業に関わってもらおう。作業チームを4～5つ編成する。（事前に用意する）それぞれにリーダーを決めて、安全管理等のルールを取り決める。

みんなで食べる食事が楽しい

汗を流して飯食って…。コンビニの弁当じゃつまらない。

県社協も注目を…

環境保全の活動を高齢者の生きがい対策のモデルにしたいと関心を示している。

ありのままの自然を…

オブラートに包んだ自然よりも、危険と隣り

あわせて、自分のことは自分で守れることが大切。



丸橋さんのご案内で河辺林を散策する。

森の散策を通じて

エリア毎に目的・整備の方針が非常に明確だった。

- ネイチャーセンターから「くさはら広場」へ：一面の竹藪を伐採して切り開いた。アラカシの木が残る。幹分れが高い位置で、建築資材には適している。ただし使えるまでにはあと20年？
- 愛知川堤防沿いは、バッファゾーンとして竹藪を残している。堤体の道路は交通量も多く、不法投棄も多い。



- 落葉樹林へ変移しているところは、冬に落葉して日差しがとおり、ラン類の種が豊富。針葉樹林は、くず・笹の類で、非常に単調。

- 観察路は、伐採した間伐材をチップにし敷き詰めている。歩きやすい。
- 観察路横には、落ち葉を集めて積み上げている。カブトムシの成育に適しているので飼育している。周囲には、モグラ等の侵入を防ぐため、ネットを埋め込んでいる。
- 野鳥がたくさん訪れるのでバードウォッチングに適している。キツツキの類は、樫に営巣する。
- 昔、砂利採集された、開けた跡地をビオトープに再生している。取水は（昔は湧水だったが枯れたので）地下水を汲み上げている。水質がきれいなので透明度が高く、生育する魚を野鳥から守るために、枯れ木や伐採した間伐材を投げ入れている。
- 林冠トレイルできるブリッジに登る。目の高さで地上13m。見下ろすほうが、見上げるよりも高さを感じる。枝先で実をつけるどんぐりを手に取る。2年を掛けて実になる。



— 以 上 —

【新井川エコ・ツーリズム PRチラシ】

キャストはりま塾主催：第2回 エコ・ツーリズム

「発見！ 地域資源」

新井用水路を歩こう！







講師：水先案内人
奥本 寛正さん（加古川市 野口堰元）

ツーリズムの見どころ

① 善徳寺の北側	富瀬川の増堤（サイフォン）
② ハリマ化成工場の敷地	白ヶ池川との合流点
③ 加古川北高の敷地	斜面を横に流れる、日岡神社の大野から水足にかけての新井増堤
④ 日岡神社の北西	日岡山傾斜面の崖下を下っている。（岩石の崩れに注意したところ）
⑤ 豊川の増堤	もとの新井と豊川の合流点、その上流の崖地、香袋堀跡
⑥ 大塚の南の土手の上	もとの水門と分水所、上の太子巻（下巻）
⑦ 大地への出入口	新井の終着点
⑧ 新井南中学校北側	新井記念碑
⑨ 新井公園	今皇徳兵衛さん夫婦の墓

- 篠原町中かりの今皇徳兵衛さんが開削させた新井用水路をたどりませす。
- 役場前から4歩での間10mを歩かせませす。
- 4の日岡神社で昼食をとり、それからバスで移動し5～9を巡りませす。
- 日 時：7月10日（土） 8:30～13:00
- 集 合：中央公民館前 8:00（受付）
- 参加人数：先着50名程度。（ただし、小学生以下は保護者同伴）
- 締め切り：7月5日（土）
- 参加費：ひとり200円（お茶代・資料代と保険料を含みます）
- 問い合わせ：キャストはりま塾、福原 078（944）3127
企画調整課、福田 0794（35）0356

【ガーデニング・フォトコンテスト 審査結果】

作品	講評	賞	作品	賞	講評
	コンテナガーデンとしては、狭いながらも立体的で、コンテナと壁面の調和がよく、手入れが行き届いている。鉢の整理が良く、高・中・低の器の配達が素晴らしい。トレリスの使い方が良い。つる性植物の使い方も上手。	優秀賞		優良賞	手入れの努力が素晴らしい。よくできているが、器の色(白)に配慮すると良くなる。素焼きのものや板で箱をつくりしたり、色目はこげ茶や深緑の系統が良い。
	植物の出来が良い。パステル調の色彩調和が素晴らしい。緑を増やせばもっと良い。場面が夏(ベチユニア)中心になっているが、四季を通じた花を植えたほうが良い。	優秀賞		優良賞	手入れの努力が素晴らしい。よくできているが、器の色(白)に配慮すると良くなる。素焼きのものや板で箱をつくりしたり、色目はこげ茶や深緑の系統が良い。
	緑のベースが良い。要所に花を入れると迫力が出る。コリウス・ときわ・マンサクなどを取り入れればよい。	優秀賞		優良賞	菊が良くできている。菊系の花を加えてみると良い。(夏:マーガレット、秋:秋名菊…)
	高・中・低の花の置き方が良い。つる・花・緑のバランスが良い。花をいっぱいにしてしまったり、ブルー系の花を入れると全体のまとまりが良くなる。	優秀賞		奨励賞	場面が限られているので、花物を1/4入れると良い。鉢の2つ分は花にしてみる。
	面積が広く手入れが行き届いている。春の花に集中している。四季感を出せばもっと良くなる。真昼の写真撮影は、ハレーションを起こしやすく、緑がきれいに写らない。	優秀賞		奨励賞	散乱している鉢を茶系にする。門の右にノーゼンカヅラ、ハーデンベルギアなどを取り入れてみては。つる性植物を入れると良い。
	アーチのノバラはよく育っている。トレリスに、2つ・3つ花を置く。	優良賞		奨励賞	トレリスにつる性植物を植えてみる。半日陰の植物を取り入れる。(ギボシ・アガパンサス・エゾミノハギ)
	つぼの配置・トレリスの使い方が良く品位がある。狭いながらもバランスが良い。半日陰に向く花(クリスマスローズ・ギボシ・ヤブランなど)を入れると良い。	優良賞		奨励賞	場面が局所過ぎて評価できない。パノラマで撮ると良い。半日陰に適した花を植えて、随所に常緑または花木を配置する。

【視察調査・セミナー参加者の声】

河辺いきものの森を訪問して

古田水利組合 日下部 博さん
河辺いきものの森を訪問させていただき、大きな森林も皆さんの手で切り開いた話を聞いて大変だと思い感動しました。

また、子ども達が体験して遊べる所や大人がシイタケや炭焼きをして、楽しく暮らせる喜びがあってよいところだと思います。

ここまで開発できたのも皆さんの理解と協力があつたからだと思いました。

播磨町にもこんな環境の場所があればよいと思います。



河辺いきものの森を訪問して

古田水利組合 中作 孝昭さん
20年を要して今の施設を作るのには、いろいろな苦労があつたことだろう。また、活動を長く続けるには、活動を十分理解してくださった人が集まって、リードする人を決めて進めていくことが大切である。

また、森の案内をしてくださった時に感じたことは、自立した活動のために稼ぐ努力をしているし、保全作業ならびに今後の活動を進めていくことも考えている。(参加者が自由であり、十分な理解を得たことが良いと思う)

しかし、我々の地域では、このような場所がない。今後考えられるのは、昔から残っている池を十分に利用していくしかないような気がする。それには、地域住民の理解を得るのに時間を必要とする。

『親学習セミナー』

栗木先生のセミナーに参加して

本田 恵子さん
今回栗木先生の講演会に参加して、人とのコミュニケーションの大切さを学びました。今回の公演に参加されたメンバーを見てみると、下は2歳から上は70代ぐらまでの幅広い年齢層の参加で、考え方もさまざま、すごく勉強になりました。そして、これからは子育てのことばかりでなく、高齢者のことも少しは気にかけていきたいです。

栗木先生が講演の時に“最近、変化した場所がありますか?”と聞かれ、すぐに思い付きませんでした。普段、いかにまわりを見ずに生活していたかということを知り知らされました。これからは、もう少し、町の変化に目をかたむけながら生活していきたいと思います。

広報の出し方についてですが、『今回はどういった方を対象に、講演を開かれたのですか?』、子育て中の親は、“講演会”と聞くとどうしても引いてしまいます。でも、今回は、講師が栗木先生だと聞いて、何かきつと、楽しい講演会になりそうだと思って参加しました。今日、子連れで来られた人は皆、栗木先生ファンなので、参加したのだと思います。だから、今日のような幅広い年齢の集まりになったのだと思います。

あと、今日少なかったのは、三連休の初日というのもあったのではないのでしょうか。子育て中の親を対象に、講演会をするのであれば、託児ありとか、午前中であるとか、親子で…という、題材であれば集まりやすいのではないかと思います。



塾生の感想

「河辺いきものの森」と出会って

松本かをり

人と自然、人と人をつなげる森と銘打った公園へ学習に行きました。

その地は愛知川沿いにある500 m×300 mの15 haの大きな自然の森でした。

役割として水害等に対する防備林であったが、上流にダムが整備され、その後役割がなくなり、手付かずの荒れた里山になっていた。

その昔より、水害等により奥山よりの種が多く、この地に根づいていた。里山と奥山との両方をあわせた多くの種が見受けられた。

多様な種の残るこの地を守り子どもたちへの自然体験の場として整備されました。

「この指とまれ」で始めた活動であり、7年前に5人から始まり、今では定例会に平日は20人、休日は50人の会員がコンスタントに参加するまでになり、月各1回ずつ自己責任のもとで食事づくり等をまじえ、楽しんで、森・里山の整備を行っています。

これらに関わる人は、整備計画及び役割分担等適確に計画され、実行に移されていて本当に感心しました。

私も地域活動を種々していますが、まだまだ不十分であると実感しました。とても良い人々との出会いに感謝します。

「新井川を巡って」

本谷かおる

再び新井を巡る機会を得た。10年前に播磨町の歴史を詩吟による構成吟（漢詩・和歌・ナレーションをいれる）を作った。資料を参考にし、新井川についてこのように構成しました。

農民によって水は、命の綱ともいえる大切なものです。しかし、阿閉の里一帯の土地は河川などの自然の水脈に恵まれず、昔から干ばつにしばしば見舞われてきました。一度干

ばつに襲われると言葉につくせぬほどの苦しい日々が続き、病人や時には餓死者さえだす始末でした。

今を去ること340年前程の昔、大干ばつで田植え前から雨が降らず、田は代割れし、一粒の米を収穫することもできませんでした。この時、新しい用水路の開削を真剣に考え始めた人物がいました。古宮組大庄屋の今里伝兵衛重幸がその人でした。23ヶ村の庄屋を自宅に集めて用水路の開削案を示し、全員の同意を得て、加古川市神野町下西条の五ヶ井取水口の近くで分水し、古宮大池へつなぐ約14キロメートル弱の用水路を明暦2年3月（1656年）わずか一年余りの歳月で完成させたのでした。

古宮大池まで、ついに流れてきた水を見て、伝兵衛も妻も、総ての百姓が、涙ぐみながら手にすくい取り、遠く廬山の瀑布のように、永遠に渴くことなく流れてくることを心中深く祈り続けたのではないのでしょうか。

この水路は、350年を経て今日もなお、近隣の田畑を潤しており、「新井川」と呼ばれています。

資料の中で新井を巡り、昨年度、今年度と歩き、説明を聞く中で思うこと…。

先人たちが残した大きな業績や文化が、阿閉の里の人々に、子々孫々へと伝えられ、あらためて先人たちの恩恵として「永遠に刻まれる」ことも大切ではないのでしょうか。

さかえゆく さとにめぐみの 新井川

幾千代までも ながれつきせず

和歌一首 作者不詳

（このような和歌も 残されています。）

『エコ・ツーリズム 新井用水路を求めて』

H・I

今日は、日岡神社まで10 km程を歩く予定で役場前を午前8時30分にスタートしました。

私自身、足の裏が痛く、日岡神社まで歩けるか、少し不安な思いをしていました。

まずは、大中橋北を少し行ったところで、喜瀬川の下を新井が通っていました。

次に、西北の方向に進み、県から来られた先生方やボランティアの森本さんに新井についての種々なお話を聞きながら新井に添い、そして、新井を少し遠くに見ながら歩きました。その途中で、田んぼの中に赤・ピンク色をした西洋タニシの多さにびっくりしました。そのタニシが増えすぎて、稲の分割を妨げると説明を聞き、またびっくりしました。

そのうちに、第1休憩所の神鋼社宅に着き、小休止後、住宅地や街中を歩き、国道2号線野口の信号のところへたどり着きました。この信号の下に新井が通っており、2号線横断部は暗渠となり、北へ続いていました。高低差のない場所では新井を直角に作り、水の勢いがつくように考えられ、随所に工夫されていました。

加古川の水を神野五ヶ井の洗堰から分水し、日岡神社のところから古宮大池までの新井を私財を投げ打って作られた、今里伝兵衛さんの偉大さに、今更ながら頭が下がりが感心しました。

日頃は自転車・車などで通り過ぎてるところを、多くの人たちと一緒におしゃべりしながら歩けた楽しい一日でした。

『ため池コミュニティ』設立に期待

毛利 豊

キャストはりま塾に在籍しながら日程の調整がつかず、今年度の会議やイベントにも参加できずよく欠席しましたが、それでも年末に開催された「播磨町ため池コミュニティ会議」と3月に行われた、滋賀県東おうみ市「河

辺いきものの森」への視察研修にはなんとか参加することができました。

「播磨町ため池コミュニティ会議」は東播磨県民局が進めている「いなみ野ため池ミュージアム」の一環として今回が4回目の開催となり、キャストはりまがグループコーディネーターを受け持っていますが、私が担当したそのグループのひとつ「妹池グループ」では、「水辺に親しむ池にする・地域全体で取組む」ために、妹池のため池協議会をつくってはとの提案がなされました。

その後、地域の自治会・水利組合の方と県民局との打ち合わせが行われ、また、「河辺いきものの森」への視察研修にも参加され、ボランティアによる地域活動についての取組みと本質的な考え方を学ぶなど、ため池協議会立ち上げへの機運が高まってきておりますので、今後大いに期待をしております。

キャストはりま塾に参加して

安田 信子

今年度の塾の行事も沢山の計画があり、参加しましたが、その中で強く印象に残っているのは、住民主体で環境保全（里山再生）に取り組む先進地 滋賀県東おうみ市「河辺いきものの森」を視察し、とても感銘を受けました。

東おうみ市では、自然環境を人々と共に守り育て、後世に残していくために、河川に沿って分布する森林、即ち“河辺林^{かへんりん}”を「河辺いきものの森」と称し、人々が自然に触れ親しむ場、環境学習や体験学習の場として活用していく中で、“人と自然 人と人をつなげる森”づくりを目指しています。

職員やボランティアが常駐することにより、いつでも誰でも立ち寄りかわりながら、自然に親しむことができる素晴らしい森でした。

播磨町の宝物の一つである「ため池」を生かし、周辺にミニでもいいから、林・森が人工的にでも出来ないものだろうか！

つくって欲しい！ つくりたい！

キャストはりま塾に参加して

神吉 恵

キャストはりま塾生として、播磨町ため池コミュニティ会議に3年間参加しました。分科会では水利組合や自治会の人たちと、池についての思いや意見を交わしました。

1年目の分科会では、「池は危ない」と言われてフェンスで周りを囲んでもすぐに穴を作ってしまう…。

2年目「池は危ないかもしれないが、周りを囲うだけでなく、自己管理できるようにしたら…。」

3年目の今年は、「どうしたら昔のように池と親しむことができるだろう。」といった意見が交わされました。そして、狐狸ヶ池、妹池にコミュニティが始められようとしています。

3月には“河辺いきものの森”への視察研修に行きました。ここは二つの川の三角州で上流から流れてきた多くの種類の木が育つ平地林でした。住宅地として開発が進む中、「昔からの緑を残したい！」人たちの熱意で、残し守られた森。森の管理は、行政と住民ボランティアの協働による理想的な運営に見えました。

ゆめ塾連絡会で開いた、小学生の“子ども夢フェスタ”では、動物のいる公園、遊べる海、魚のいる川、緑豊かな森……など、多くの子どもが自然豊かなまちを夢に見ています。

「水に親しめる池、川、海、小動物のすむ森」山のない播磨町にも、平地林なら造れるかもしれません。それらの池、川、海、森に行くために、自動車ではなく、ベビーカー、シルバーカー、車椅子、歩行、自転車で行きたくなる安全で楽しい道ができたならどんなに素敵なことでしょう。

そんな“まちづくり”を目指して、次年度もキャストはりま塾で仲間と話し合っていきます。

『水辺で自然と遊ぶ』

三村 隆史

10月30日(土)、小雨のパラつく中、喜瀬川に入って魚を追ったり、竹筒で水を飛ばす子

どもたち。

ため池ウォーキングと喜瀬川遊 ing の参加者は、ため池をめぐり、野鳥観察や鯉に触ったり、水質を調べながら、であい公園に到着しました。

ボランティアと塾生が協力して、石ころペイントや焼いもも楽しんでもらいました。親子の参加者も多く、お父さんやお母さんから昔の遊びなどを話してもらっている子ども達。地域の資源を生かす仕掛けがあれば、いっぱい楽しめることを確認した一日でした。

塾からの提言

住民の立場から広くまちづくりに関心を持ってもらう「しかけ」をデザインするために、次のような取り組みを提案します。

- ① 新しい「豊かさ」の価値を創出し、相互扶助のあたたかな心を交流させるために、さらにはコミュニティの活性化を図る仕掛けとして地域通貨「LETS阿閉」の流通実験を行う。
- ② 地域資源の「ため池」に広く関心を持っていただくために、新井用水路をたどるエコ・ツーリズムを企画する。
- ③ 北池をはじめ、具体的な形になりつつある「ため池コミュニティ協議会」の設立をサポートしていきたい。
- ④ 播磨町らしいガーデニングを啓発するために、コンテナガーデンフォトコンテストを開催する。
- ⑤ 北池の緑地を、野鳥が集う、自然豊かな「平地林」として再生させたい。

3世代を紡ぐ 元帰塾